

船舶事故調査報告書

平成29年3月23日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成28年8月3日 16時00分ごろ～4日 14時39分ごろの間）
発生場所	沖縄県うるま市勝連埼南西方沖 平曾根灯台から真方位252° 1,130m付近 （概位 北緯26° 15.6′ 東経127° 52.4′）
事故の概要	漁船エリ丸は、潜水漁に従事中、船長が死亡した。
事故調査の経過	平成28年8月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 エリ丸、2.5トン ON3-16406（漁船登録番号）、個人所有 8.19m（Lr）×2.25m×0.86m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数45、昭和58年12月4日
乗組員等に関する情報	船長 男性 67歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成元年2月1日 免許証交付日 平成28年5月17日 （平成33年5月16日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東北東～北東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、水温 約30℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成28年8月3日16時00分ごろ、操業の目的で漁場に向けて同じ漁業協同組合に所属する同業者（以下「本件同業者」という。）に見送られ、うるま市南原漁港 <small>みなみはら</small> を出港した。 本件同業者は、本船が、ふだん出港した翌日の正午ごろまでには帰港していたものの、4日の正午を過ぎても戻っていないので、海上保安庁に通報して僚船の船長が捜索に向かった。

	<p>本船は、14時39分ごろ、勝連埼南西方沖で錨泊している状態で海上保安庁のヘリコプタにより発見された。</p> <p>船長は、本船が発見された直後に海上保安庁の潜水士により本船付近の海中で発見され、海上保安庁の特殊警備救難艇で沖縄県沖縄市中城湾港新港地区に運ばれ、救急隊により死亡が確認された。</p> <p>船長の死因は、溺死と検案された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>船長は、フーカー（送気式）潜水と称する潜水器を用いてもりで漁獲を行っていた。</p> <p>本船は、後部甲板に設置されたガソリン機関で駆動する空気圧縮機から圧縮空気が、空気槽、空気清浄装置及び送気ホースを經由して末端に接続されたレギュレータ付きマスクを介して潜水者に送気され、空気圧縮機と空気槽の間及び空気槽と空気清浄器の間は、送気ホースによって接続されていた。</p> <p>海上保安庁の情報によれば、発見時、船長は、潜水漁を行うときに使用するレギュレータ付きマスク、フード、ウェットスーツ及び長靴を着用して端にウエイトが付いたロープを腰に巻いていた。また、本船は、空気圧縮機に接続されていた送気ホース（以下「本件送気ホース」という。）が外れており、空気槽に圧縮空気が溜まっていなかった。</p> <p>海図W228B（中城湾）によれば、発見場所付近は、水深約15mで東側に平曾根がある。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、溺死した。</p> <p>本船は、8月3日16時00分ごろ南原漁港を出港し、勝連埼南西方沖で錨泊して潜水漁に従事中、4日14時39分ごろ船長が海中で発見されたことから、この間において、船長が溺死したものと考えられる。</p> <p>船長は、本件送気ホースが外れて送気が途絶え、溺死した可能性があると考えられるが、溺死に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、勝連埼南西方沖で錨泊して潜水漁に従事中、船長が溺死したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潜水器は定期的に点検及び整備を行うこと。

付図1 事故発生場所概略図

